

## 「那珂川水系河川整備計画（原案）」に対する公聴会

日 時：平成27年9月28日（月）10:00～10:20

会 場：①国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所

発言者：公述人2

皆さん、おはようございます。

水戸市在住の■■■■と申します。千波湖水質浄化推進協会という、任意団体ですが、ボランティア団体を有志を募って活動して6年ぐらいになります。

今日は、私の方からは霞ヶ浦導水事業における桜川・千波湖への先行実験導水のお願いというようお願いをさせていただきます。

ちょっと読みます。

千波湖は多くの観光客が訪れる水戸のシンボルであり、市民の憩いの場でもあります。その千波湖では、毎年5月から11月の間、アオコが発生し、水辺景観の悪化や親水性が損なわれ、悪臭に悩まされることもあり、さらなる観光誘客やにぎわいづくりに利活用することができない状況です。

この時期のアオコをなくし、きれいになった千波湖で、子供たちの遊びのスペースづくりや湖上フェスティバルなど、もっとさまざまなことを積極的に実践したいと多くの市民が願っています。

霞ヶ浦導水事業における桜川・千波湖への導水事業は、水質浄化や、このアオコ対策に極めて高い効果が得られるものと期待をしています。アオコのない桜川・千波湖を早期実現させるため、桜川・千波湖への導水を本事業に先行して運用していただくよう要望しています。

また、先行して実験導水することで霞ヶ浦導水事業におけるさまざまな課題の検証にも役立てていただけるのではないかと考えています。

ということで、ご承知のとおり、偕楽園あるいは特に千波湖周辺はウォーキングをする人、あるいはジョギングを楽しんだり、こういった市民の方がたくさんいらっしゃいます。また、周辺では、特に最近さまざまなイベントが開催されるようになって、それがにぎわいづくりも活発になってきている現状はあります。

ただ、すべてのことがそういった周辺で行われたり、例えば花火であれば上空を使ってやっているわけですが、湖そのもの、水そのものを活用している行事とかイベントはほとんどありません。私を知る限りでは、あえて言えば、灯籠流しとか、今思い当たることはそれぐらいで、水そのものを活用できるような状況には今の千波湖はありません。

水戸市が親水デッキという、水に親しむデッキというのを何年前につくりましたが、これはデッキから水を眺めるような状況になっていて、水に例えば子供が膝までは入れるとか、そういう状況ではありません。そのデッキに立って湖を見てみますと、昨日もそうでしたけれども、先ほど申しましたように、5月から11月ぐらいの間には必ずアオコがあります。昨日でも親水デッキの前ぐらいは、アオコ見たい目標というのがあるんですけども、御存じない方もいらっしゃるかもしれませんが、ゼロから6までの数値であらわしているんですけども、昨日でも多いところは4ないし5、少ないところでも2です。4以上になると非常に見た目も悪くて、べったりと緑色のアオコが表面に浮いています。こういった状況では、どんなイベントをやろうと思ってもなかなかできないというのが現実です。

例えば、ミニトライアスロン、来年からマラソンも千波湖周辺というか水戸市で行われることになりましたけれども、私たちのグループ、あるいはほかのグループとミニトライアスロンなんかいいのではないかと。ミニですから、ちょっとイベント的にやるわけですがけれども、大洗には有名な選手もいらっしやいますし、そういった方をお招きしてそういうことをすれば、観光誘客というか、地域の人も集まれる、そういったこともできるのではないかと考えるわけですが、実際現状では誰も参加してくれる人はいないと思います。

まちが元気だったころは、あまり千波湖の水そのものを活用して何かイベントをやってまちづくりに役立てようというふうには思わなかったのかもしれませんが。ただ、ご承知のように、水戸市も駅前には高島屋もなくなり、西武もなくなり、南口ではヤマダ電機もいなくなって、まちも本当にシャッターを閉めている店がふえているような状況です。水戸のメインの通りからも大きな商店は大分前から撤退をしているような状況が続いています。水戸の駅前の地価もつくばと比べれば値段も、地価も下がっていて、まち全体の力がなくなっていたり、あるいは人口も現実的に少し減少に転じているというようなことで、非常にまちの元気が、どこの地方都市でもそうかもしれませんが、水戸もそういった状況になっているということは明らかだと思います。

やっぱりまちの資産というか、資源というか、そういったものを見つけて、それを生かして、市民が行政と一緒にまちづくりを一生懸命やっていかないと、まちそのものの存在だって揺るがないというわけではありません。

私たちは、ぜひ千波湖の湖上をもっと活用してにぎわいづくり、あるいは観光誘客、こういったものに活用していきたいというふうに思っております。

何としてもアオコをなくしてそういった事業をするためにも、また市民の皆さんと、もしアオコがなくなってきれいな千波湖になったら千波湖でどういうことができるだろうかというようなことについても、来年の春に市民の皆さんと一緒に市民シンポジウムを開くつもりでおります。お時間の許す方はぜひそのシンポジウムにも来ていただいて、千波湖でこんなこともできるじゃないか、あんなこともできるじゃないか、そういった夢も語って、現実にできることも探っていく、そういったシンポジウムにしたいというふうに考えております。

霞ヶ浦導水事業の中には、そもそも桜川と千波湖への導水というのは毎秒3トン入れていただけということで、計画には入っているようでございますけれども、この事業が政権が変わってストップしてしまったり、あるいはそれ以外のさまざまな要因で事業がなかなか進まないというような状況を見ておりますと、本当に何年たったら千波湖・桜川に導水が実現できるんだろうというように単純に疑問に思っています。

実は、取水口はできておりませんが、那珂機場あるいは赤塚駅の南口を下ってきた桜機場、そこまでの水戸トンネル、これはもう大分前から完成をしております。ですから、私たちはぜひこの本事業の全線開通を待つのではなくて、本事業に先行して桜川・千波湖を、勝手に名前をつけているわけですが、先行して実験導水とか、あるいは試験導水、こういう形で桜川・千波湖への導水を実現させていただきたいというふうに心より願っております。一日も早くまちづくりに活用したい、そういう気持ちでおります。

余分なことかもしれませんが、現在も那珂川の水は渡里用水というところを経由して毎秒、平均すると1トン弱でしょうか、それぐらいの水が千波湖には流入しています。ですから、那珂川の水が桜

川を通して千波湖を通してまた那珂川に帰っていく、このこと自体はもう既に現実として行われているわけですから、これを活用して水量をふやすことでほとんど問題はないというふうに考えてもいますし、そこの中でいろいろと係争されている裁判などなっている中でのアユの稚魚がどれくらい影響が出るのだとか、そういうことの検証にもつなげていくことができるというふうに思うので、私はそういう意味でも実験導水を先行してやることは悪いことではないのではないかというふうに勝手ですが解釈をしております。

いずれにいたしましても、桜川・千波湖への先行実験導水を一日も早く実現させていただいて、水戸のまちづくり、元気づくりに活用したいということで今日は参りました。

時間前ですけれども、以上でございます。どうもありがとうございました。

以上